

二 新国道八幡浜三崎間全線開通

一般国道一九七号線佐田岬半島道路は、八幡浜市矢野町を起点として、保内町、伊方町、瀬戸町を通過し、三崎町三崎にいたる延長三八・九キロメートル（うち県施工三・七キロメートル）国直轄施行の道路である。

建設省大洲工事事務所では昭和四一年度から本道路の調査を開始し、八幡浜以西を直轄代行区間として取り組み、昭和四五年度からの第六次道路整備計画に基づき整備を図ることとなった。

佐田岬半島は全域が中央構造線に沿った三波川変成帯に属し、非常に地質が悪いところから、ルートは地滑り等に対応し山腹を避け頂上を通過する計画がたてられた。そのためトンネル二〇カ所（延長八・一キロメートル）、橋梁三二カ所（延長二・三キロメートル）と構造物が連続する道路となっている。

工事は昭和四七年九月大峠トンネル着工から始まり、八幡浜市側および三崎町側の二方向から進められ、昭和六二年一二月、総事業費四一〇億円で全線開通した。

この完成により八幡浜市と三崎町間は、距離にして一五・五キロメートル、時間にして六〇分の短縮となり地域の産業・観光を活性化し本町住民の生活にも大きな変化をもたらした。

○事業の経緯

昭和四七年	九月	大峠トンネル着工
昭和五〇年	一〇月	保内町宮内と伊方町河内（延長四・六キロメートル）供用
昭和五三年	九月	伊方町河内と川永田（延長三・六〇六キロメートル）供用
昭和五五年	三月	伊方町川永田と九町（延長〇・七五二キロメートル）供用

昭和六一年 三月 伊方町九町一見平石峠(延長四・二六〇^{キロメートル}) 供用

昭和六一年一〇月 伊方町二見平石峠一瀬戸町塩成(延長四・二八八^{キロメートル}) 供用

昭和六二年一二月 瀬戸町堀切大橋(延長二〇〇^{メートル})を含む塩成一川之浜(延長五・一^{キロメートル}) 供用でもって全線開通

○開通イベント等

(一) 保内町一伊方間開通式

昭和五〇年一〇月二一日、国道一九七号線の保内町宮内一本町河内間が開通し供用を開始。これを記念して同日開通式が開かれた。

(二) 九町一見間開通式

昭和六一年三月一九日、国道一九七号線の本町内の区間・九町一見間が開通した。開通式は亀ヶ池を見下ろす平石峠で行われ、関係者ら約一〇〇名が出席した。神事のあとテープカットを行い参加者全員で通り初めが行われた。このときの開通部分は約四・三^{キロメートル}。

(三) 全線開通式

昭和六二年一二月四日、国道一九七号線上線が全線開通した。当日は瀬戸町塩成の堀切大橋において午前一〇時から開通式が行われ、その後供用が開始された。

(四) 三崎一八幡浜間駅伝競走大会

一九七号線全線開通を記念し昭和六二年一二月二九日に三崎一八幡浜間を走る駅伝競走大会が開催された。出発点は三崎町商工会前、ゴールは八幡浜市役所であった。この駅伝競走大会は、その後毎年開かれている。

(五) ルートの愛称・キャッチフレーズ

国道一九七号線の全線開通を記念し、佐田岬広域観光推進協議会ではルートの愛称とキャッチフレーズを募集した。応募総数は愛称の部一五〇二点、キャッチフレーズの部一六一〇点であった。

決定したキャッチフレーズと愛称は次の通り。

- ・愛称「佐田岬メロディーライン」(応募作品に適当な作品がなく推進協議会が決定)
- ・キャッチフレーズ「光と緑と潮風と…いま・佐田岬」

三 町道湊浦伊方越線改良工事及び関連県工事

一級町道・湊浦伊方越線は、標高二〇〇^{メートル}の茅の峠を経由して、宇和海側と瀬戸内海側を結ぶ町内の主要な幹線道路である。

これまで瀬戸内海側と宇和海側を結ぶ道路は、全線未改良で急カーブが連続、勾配も急で幅員も狭かったため通行の難所となっていた。近隣地域間の時間・距離を大幅に短縮するとともに、瀬戸内海側から国道一九七号(メロディーライン)へのアクセスを向上させるため、ここに工事総延長一・八^{キロメートル}の新たなバイパスを建設することが決まったのである。

町道湊浦伊方越線改良工事は平成六年一〇月から始まった。

ルート上には「城の台トンネル」「茅トンネル」という二つのトンネルが建設された。特に茅トンネルは延長九二^{メートル}、バイパス計画総延長の約二分の一を占めるものである。

佐田岬半島は、三波川帯に位置し緑色片岩が広く分布、その中に石英片岩や黒色片岩などが薄く挟まっている。また斜面には、地滑りなどの崩壊土を主体とする崖錐堆積物が分布、地質構造は緩やかで開いた背斜及び向斜構造が繰り返されているという特徴がある。